

第22回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会 (消費者関係団体)

日時：令和3年4月19日（月）15:00～16:20

場所：オンライン開催

参加者：別紙参照

【先方コメント概要】

- ・みどりの食料システム戦略の主題である食料と農林水産業の持続可能性は消費者にとっても関心が高い。
- ・本戦略において高い目標を掲げ、国際的に発信していくのは大事であり、消費者としても誇らしいことである。
- ・本戦略は画期的で、大規模な戦略であり、是非進めていただきたい。消費者として何が出来るのかを考え、日頃から勉強会を行っているが、本戦略の話聞き、様々の内容を知るための機会をいただいた。
- ・本戦略の高い目標、取組に賛同。期待したい。
- ・農林水産業が環境に与える負荷も丁寧に伝えるべき。
- ・消費者の買い支えは、消費者が無理をするのではなく、環境に負荷を与えた人がコストを負担すべき。
- ・食品安全や健康に関わる政策は科学に基づいて打ち出すべき。ゲノム編集、遺伝子組み換えについても、食料確保のためには、科学的な検討をしてもよい。
- ・水産と畜産における施策や目標が少ない。抗菌剤の使用に係る施策については、消費者も知るべき。水産資源保護について、IUU規制の早急な実効化が必要。養殖の目標の捉え方もあれば明確にしていきたい。
- ・真に持続可能性につながるものとそうでないものの区別がつくことが重要であり、認証制度や表示の在り方は非常に大切。

- 言葉の定義を明確にすべき（農林水産業のCO2ゼロエミッション化、国際的に行われている有機農業、化学農薬使用量のリスク換算等）。正しい情報を得ることで、消費者として疑問や関心を持つことができる。
- 農業の担い手不足について、機械の導入のみならず、人材育成の観点からも検討して欲しい。
- (有機をやることによって、見た目が悪いものでも理解して買ってもらえる必要が出てくることに対しての認識を問われて) 消費者として、背景情報を理解して形の悪いものなどを積極的に利用することはよくある。流通や卸の段階で扱われないということがあるのではないか。
- 買い物袋の有料化でも見られたように、経済的な手法は消費者の行動を変えるうえで有効。その際には、何が環境負荷なのか、生態系から得ているものを価格に反映させること、またフリーライダーを生まないように、正確な制度設計が必要。
- 有機野菜は皮まで丸ごと食べられるため、食品ロスの削減につながることもある。
- 有機農業は是非拡大してもらいたいですが、スーパーには形が悪いものがそもそもあまり置いてないことから分かるように、生産者とスーパーのマッチングが上手くできていないのではないか。
- 有機農産物を品質や安全性（カビ毒等）を確保したうえで消費者に届けるためには、フードチェーンの変化も必要となる。

(以上)

(別紙)

第22回みどりの食料システム戦略に係る意見交換会
(消費者関係団体)

出席者一覧

日本生活協同組合連合会

ふたむら 二村	ちかこ 睦子	常務執行役員
たけだ 武田	けんじ 賢治	政策企画室
かんの 菅野	まさひで 昌英	第一商品本部 産直グループ
ももせ 百瀬	あやの 紋乃	組織推進本部 社会・地域活動推進部 組合員活動グループ

主婦連合会

ありた 有田	よしこ 芳子	会長
ひらの 平野	ゆうこ 祐子	副会長
やまね 山根	かおり 香織	常任幹事

一般財団法人 消費科学センター

いおか 井岡	ともこ 智子	企画運営委員
たかはし 高橋	ゆうこ 裕子	企画運営委員

全国地域婦人団体連絡協議会

はやし 林	ゆかり 由香里	会長代理 (茨城県地域女性団体連絡会 理事)
----------	------------	------------------------